

第14回 鈴鹿病態薬学研究会

日時：平成30年9月21日（金）16時30分より

会場：鈴鹿医療科学大学薬学部（白子キャンパス）6号館6103室

◆ 演題：脳の神経回路の傷害と修復のメカニズム

◆ 講師：村松 里衣子 先生

国立精神・神経医療研究センター神経研究所 神経薬理研究部 部長

◆ 講演概要

脳と脊髄からなる中枢神経系の機能は、神経回路によって担われている。様々な病態では、神経回路が傷害され、傷ついた神経回路が担っていた機能が失われる。このようにして現れた症状は、しばしば自然回復することが知られ、それは傷ついた神経回路が自発的に修復した結果と考えられている。一方、脳や脊髄の血管には強固なバリア機能が備わり、血液中の物質は正常時は脳実質に届きにくくなっている。そのため、脳や脊髄の神経回路の修復は、脳や脊髄の内部の分子の役割によりコントロールされると考えられていて、それらの分子の役割を解明するという形で研究が進められていた。ところが、様々な病態ではしばしば血管障害が認められ、血液が脳実質に漏れこむ様子が観察されている。また、近年、血管が障害されている部位では、神経回路の一部である髄鞘が自然に修復すると報告された。これらのことから、私たちは、病態で血液が脳脊髄に漏れこみ、その血液に含まれる分子が髄鞘修復に影響を与えると考えた。本講演では、血液に含まれる fibroblast growth factors 21 が脳の髄鞘修復を促す新知見 (Kuroda et al., Journal of Clinical Investigation, 2017) を中心に、神経回路の傷害と修復を制御するメカニズムについて、最近の研究成果を紹介する。

主催：鈴鹿病態薬学研究会（代表 鈴木 宏治）

共催：株式会社 ココカラファイン

事務局(問い合わせ先)：鈴鹿医療科学大学薬学部 医薬品開発学研究室 中山 浩伸
TEL：059-340-0606, e-mail：nakayamh@suzuka-u.ac.jp

第14回 鈴鹿病態薬学研究会

脳の神経回路の傷害と修復のメカニズム

講師： 村松 里衣子 先生

国立精神・神経医療研究センター

神経研究所 神経薬理研究部 部長

日時：平成30年9月21日(金) 16時30分より

会場：鈴鹿医療科学大学薬学部(白子キャンパス) 6号館 6103号室

本講演会では、神経回路の傷害と修復を制御するメカニズムについて、特に血液因子が脳の髄鞘修復を促進する新知見を中心にわかりやすく解説していただきます。

奮ってご参加ください。

主催： 鈴鹿病態薬学研究会(代表:鈴木 宏治)

共催： 株式会社 ココカラファイン

事務局(問い合わせ先)： 鈴鹿医療科学大学薬学部 医薬品開発学研究室 中山 浩伸

TEL 059-340-0606 e-mail nakayamh@suzuka-u.ac.jp